

農 政 課

平成 28 年度

農 政 課

1 概 況

管内の農業は、標高約 1,200m の八ヶ岳山麓から 760m の諏訪湖周辺に至る地域において営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、キャベツとだいこん、レタスが指定野菜に、セルリーとスイートコーンが特定野菜の産地指定を受けている。特にセルリーは全国屈指の産地として発展してきている。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県内の 3 割弱の生産額を占める大産地として発展している。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

諏訪湖周辺地域は、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 6,174ha で、田は 3,404ha、畑 2,769ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 106a で県平均 104a を上回っている。

市町村名	耕地面積 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	農家一戸当たり耕地面積 (a)
岡谷市	234	81	153	46
諏訪市	646	419	227	66
茅野市	2,460	1,400	1,060	100
下諏訪町	54	27	27	37
富士見町	1,640	919	720	153
原村	1,140	558	582	171
合計	6,174	3,404	2,769	106
対比	97.9	97.2	98.9	—
県	108,900	54,000	54,900	104
対比 (%)	97.9	97.5	98.4	—

注) 資料: 農林水産省耕地面積調査 (平成 27 年 7 月 15 日現在)

①対比は平成 22 年 7 月 15 日現在との比較。

②原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

③一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 201 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業就業人口、基幹的農業従事者等

農家戸数は 5,829 戸で前回センサスの 92.7%となっており、うち専業農家は 905 戸で、専業農家率 15.5%は県の 16.4%を下回っている。

販売農家戸数は 2,578 戸、自給的農家戸数は 3,071 戸となっている。

農業就業人口は 4,579 人で前回センサスの 85.8%と減少しているが、販売農家の基幹的農業従事者は 3,984 人で、前回センサスの 91.1%にとどまっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数							農 業 就 業 人 口	基 幹 的 農 業 従 事 者
	総農家数	販 売 農 家				自給的農家	専業農家率		
		専業	兼業		計				
			第1種	第2種					
岡谷市	512	33	3	43	79	433	6.4	151	116
諏訪市	982	120	30	253	403	579	12.2	626	553
茅野市	2,452	375	86	697	1,158	1,294	15.3	1,901	1,599
下諏訪町	146	8	1	11	20	126	5.5	35	33
富士見町	1,070	185	64	349	598	472	17.3	898	819
原村	667	184	81	235	500	167	27.6	968	864
合計	5,829	905	265	1,588	2,758	3,071	15.5	4,579	3,984
対比	92.7	107.6	59.4	84.6	87.2	98.2		85.8	91.1
県	104,812	17,241	6,008	28,536	51,785	53,027	16.4	82,935	73,483
対比	89.3	103.0	71.7	77.2	83.4	96.0		82.7	88.3

注) 資料：2015年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満でかつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家
- ③農業就業人口：1 年間に農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数が多い世帯員
- ④基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、1 年間の普段の主な状態が農業に従事していたもの
- ⑤対比：2010 年農業センサスとの比較

(3) 平成 27 年の気象と農業生産状況

平成 27 年の気象経過は、春先は比較的気温が高く推移し、4 月中旬までは平年並みの気温であったが、4 月下旬から 5 月下旬まで高温傾向となった。梅雨入りは、平年より 5 日早い 6 月 3 日頃で、梅雨明けは平年より 11 日早い 7 月 10 日頃で梅雨期間は短かった。梅雨期間中の降水量は、ほぼ平年並みであった。

梅雨明けから 8 月上旬にかけて高温、干ばつ傾向となったが、8 月中旬以降は一変して低温、多雨の天候となった。

気象災害としては、春の凍霜害はなく、8 月上旬に一部地域で降雹や 9 月 10 日に台風の通過があったものの大きな被害はなかった。

主な農作物の生産状況は、水稻については、登熟期が不順天候であったことから、高標高地帯で青未熟米が多く発生した。南信地域の作況指数は、99 で、平年より低かった。特産のセルリーについては、梅雨明け後の猛暑で生理障害の発生が多かったことに加え、盆過ぎからの低温、多雨により病害の発生が多く、生産量は前年よりやや減少した。

(4) 農業等産出額 (H26)

(単位：ha、千万円、%)

種 類	作付面積	農業等産出額	構成比	備考	
農畜産物	米	2,148	257	17.8	
	麦・大豆・雑穀	448	7	0.5	
	果樹	93	20	1.4	
	野菜	1,714	577	40.0	
	花き	64	302	20.9	
	きのこ	-	72	5.0	
	畜産	-	100	6.9	
	養蚕・その他	-	0	0.0	
	計	4,467	1,335	92.6	
水産業	-	107	7.4		
合計	-	1,442	100.0		

注) 産出額は県農業産出額に基づく地方事務所推計値である。